



静岡県教育委員会教育長賞

## わたしたちはどう生きるか

二年 一瀬友里

私の家ではトラジローという犬を飼っています。名前の由来は父が阪神タイガースという野球チームが好きなのと、我が家の二代目の犬だからです。トラジローは、体に障害があり大変な子ですが、私達の大切な家族であり私の弟です。そんなトラジローですが、実は保護犬なのです。私はこの前までトラジローの過去を少し知っていたのですが、この作文を書くに当たってそれらを両親に教えてもらいより鮮明に知ることができました。

トラジローは愛媛県で生まれ、そこから兵庫県に移動。現地のペットショップで売れ残り、繁殖のためにブリーダーに引き取られたそうです。しかし、繁殖犬としてうまくいかず何人かの元を転々としてきました。その頃の環境は、衛生面がちゃんとしておらず最悪だったと聞いています。その中でついに「繁殖は無理。」と判断され殺処分寸前までいってしまいますが、心優しい人に助けられしばらくその人のもとで暮らしていました。そこで暮らしていたときは「チン」と呼ばれていました。私達家族は母の会社の人から打診されチンを助けた人の元へ行きました。保護犬はチンを合わせて三頭いたのですが、私達はチンを家に連れ帰り、先代の犬とも特に相性が悪いわけではなかったので正式に迎え入れました。そして「トラジロー」と命名し、今に至ります。

犬はいつでも一緒にいてくれて共に過ごす時間が楽しいと感じさせてくれます。私は大人になってこの時間をたくさん作りたいので、将来犬を飼おうと思っています。将来のことを考えながら思ったのは、父がこの作文を書くときに言ってきた「どうしたらトラジローみたいな境遇の犬が減るのか」という問いと「私達はどのようにして生きていけばよいか」という独自の疑問でした。これらのことに対し、私は将来飼う犬を保護犬にしようと思っています。新しく買うのではなく、今まで危ない目にあってきた子たちを受け入れる。そうすれば少しでもトラジローのような子たちを減らせるのではないかと考えました。私自身が本当はどうするのか、もし犬を飼うのならこれは正解なのかは未来のことなのでわかりません。しかし、これらのことで少しでも危険な状態の子達が減るのであればそれは実現する価値があるのだと思います。

今回のことで色々大事なことを教えてくれた両親やトラジローに感謝しています。今は、トラジローとの時間を大切に、たくさん思い出を作ってこの子がこの家においてよかったと思えるような日々を送っていきたいと思っています。「私達の大切な家族として責任を持ったうえでともに生きていく」これが今の私が考えるトラジローとの生き方なのだと感じています。